場所　大分県大分市

面積　17.0595ha



活動目的

地域の生物多様性に配慮し、未来に美しく緑豊かな環境を残していくため。・社員のリフレッシュや健康増進をすべく遊歩道を整備し、レクレーションの場とするため。・地域小学生の体験型の学びプログラム（環境教育）の場とするため。

サイト概要

大分キヤノン大分事業所は、大分市東部の一級河川である大野川に近い丘の上に位置し、周辺には様々な命を育む手つかずの自然があふれている。この豊かな自然を壊すことなく共生していくことを目的に、事業所敷地内の社有林を「キヤノンの森」として管理している。重要種に該当するノスリ、キビタキ、サンコウチョウなど、四季に応じてツバメやオシドリ、ウグイスなどの野鳥を確認。また、巣箱設置やビオトープ（第一調整池）などの緑地管理を行うことで、野鳥が飛来しやすい環境を整えている。また生物多様性の保全にも重要な役割を果たす里山保全も、サイト内にて行うことで、人と自然と生物が共存ずる環境構築を進めている。

土地利用の変遷

工業用地として用意された土地ではあるが、原生林や雑木林が保有されていることで、四季折々の様々な植物が生育している。春は、ヤマザクラ・キイチゴ。夏は、チョウトンボ・カブトムシ・ゲンジボタル。秋から冬は、クヌギ・コナラ・アケビなどが確認できる。加えて、ダイダイやスギおよび池（ビオトープ）など人の手が加えられた里山としての環境も維持保全し、人と自然と生物が共存する環境構築を行っている。

サイト周辺の環境

大分市東部の一級河川である大野川にほど近い丘の上に位置し、周辺には事業所や民間住宅に加え小規模な里山も点在している。

アピールポイント

・公益財団法人日本野鳥の会大分県支部アドバイスをもとに、敷地内でバードブランチと称した野鳥調査（ラインセンサス・スポットセンサス）を実施し、野鳥の種を確認している。

・キヤノンの森を散策しながら、虫や植物をカメラで撮影する環境授業を行っている。

・従業員による緑地管理年間計画にもとづき、外来種の除草や緑地整備を行っている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

ビオトープ（第一調整池）などの緑地管理を行うことで、野鳥が飛来しやすい環境を整えている。また生物多様性の保全にも重要な役割を果たす里山保全も、サイト内にて行うことで、人と自然と生物が共存ずる環境構築を進めている。

【主な植生】

申請区域内の自然林における植生は、ニホングリ、マダケ、その他多様な樹木の群集である。なお、区域全体ではクヌギ、コナラ、ヤブツバキなどが優占している。

【確認された主な動植物など】

ゲンジボタル、サワガニ、ミンミンゼミ、チョウトンボ、キアゲハ、カブトムシ、クヌギ、コナラ、ハンミョウ、ヤマザクラ、キイチゴ、ヒバリ、ツバメ、キビタキ、サンショウクイ、ホトトギス、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、アオジ、コガモ、ヤマドリ、マガモ、スズメ、メジロ、ウグイス、イソヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヤマガラ、カボス（大分の里山に特産物として植えられている）、マダケ（門松用）　等



写真の説明：ビオトープその１



写真の説明：里山エリアにある畑

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

近隣の小学生や社員の子どもたちを対象として、「キヤノンの森」を探索する「自然探索教室」を開催し、自然保護に対する意識向上と地域の方との交流の場づくりや次世代を担う子どもたちに生物多様性の大切さを伝えています。また、正月前には間引いた竹を使用した門松制作を行い、SDGsに貢献している。

【主な植生】

工業用地として用意された土地ではあるが、原生林や雑木林が保有されていることで、四季折々の様々な植物が生育している。春は、ヤマザクラ・キイチゴ。夏は、チョウトンボ・カブトムシ・ゲンジボタル。秋から冬は、クヌギ・コナラ・アケビなどが確認できる。また池では、希少な両生類も繁殖している。

【確認された主な動植物など】

ゲンジボタル、サワガニ、ミンミンゼミ、チョウトンボ、キアゲハ、カブトムシ、クヌギ、コナラ、ハンミョウ、ヤマザクラ、キイチゴ、ヒバリ、ツバメ、キビタキ、サンショウクイ、ホトトギス、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、アオジ、コガモ、ヤマドリ、マガモ、スズメ、メジロ、ウグイス、イソヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヤマガラ、カボス（大分の里山に特産物として植えられている）、マダケ（門松用）　等



写真の説明：キッズスクール「自然探索写真体験」



写真の説明：キヤノンの森の竹を利用した門松

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

大分市東部の一級河川である大野川に近い丘の上に位置し、周辺には様々な命を育む手つかずの自然があふれている。この豊かな自然を壊すことなく共生していくことを目的に、事業所敷地内の社有林を「キヤノンの森」として管理している。また、巣箱設置やビオトープ（第一調整池）などの緑地管理を行うことで、野鳥が飛来しやすい環境を整えている。

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020、レッドデータブック大分2022の掲載種として、以下の7種が確認されている。

・両生類1種
・鳥類6種
（ノスリ、ヤマドリ、キビタキ、オシドリ、サンコウチョウ、サンショウクイ）



写真の説明：ノスリ



写真の説明：里山に生息するヤマドリ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

【活動目的】
・「キヤノンの森」に存在する自然林エリアと里山の維持保全
・「キヤノンの森」に存在する生物多様性の維持保全

【活動内容】
・自然林エリア
　基本的に自然の成り行きに任せ、過度な介入を行わないようしている。
　（外来種の除草程度は実施）
・里山エリア
ビオトープ（第一調整池）緑地エリアの保全管理を行うことで、野鳥が飛来しやすい環境を整えている。
■従業員による緑地管理
・年３回　ビオトープ周辺　除草作業
・年２回　ビオトープ周辺　外来種等除草
・年２回　ビオトープ周辺　緑地エリアの剪定作業及び雑木撤去
・年５回　里山　果樹園管理除草
・年１回　森里山　果樹園施肥、防獣柵補修
・年４回　森里山　管理道路除草
■外部業者による緑地管理
・年２回　ビオトープ　草刈・清掃
・年１回　サンショウウオ池周辺　草刈

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
鳥類、両生類、昆虫類、植物を対象とする。

【モニタリング場所】
・キヤノンの森：設定したルート沿い

【モニタリング手法】
・目視または双眼鏡
・自社製品(カメラ)を使用した撮影

【モニタリングの実施時期及び頻度】
・目視または双眼鏡によるバードウォッチング：1回/半年
・野鳥の会バードブランチ　1回/年(10月)

【モニタリング実施体制】
・大分キヤノン従業員
・公益財団法人日本野鳥の会大分県支部(アドバイザー)